

JWTA創立50周年記念パーティーを開催

木製品の生産合理化の歴史を振り返る 国内木製家具製造業の国際競争力強化を提言

日本輸入 木工機械協会

欧米の最新木工機械を紹介・輸入し日本の木材産業の発展に大きく貢献してきた日本輸入木工機械協会（略称・JWTA、安居実会長）。今年で創立50周年を迎えたことから、6月19日東京・九段下のホテルグラ

ンドパレスで「JWTA創立50周年パーティー」を開催、関連する官庁、産業界、学会など約100名が招待され創立50周年を祝った。また創立以来の歴史をまとめた「日本木工関連産業と輸入木工機械協会50年の

歩み」をまとめた小冊子を発刊、出席者に配布した。

記念パーティーの冒頭、挨拶に立った安居会長は次のように述べた。「協会は1965年に設立された。折からマンシヨンプームが本格化し家具・建具・造作材の大量生産が必要になり、木材産業の機械化が進みましたが、そういった時代背景の元に協会の50年があり、皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。

私共の協会の社会的な役割、責任というものは、変わりなく世界の最新技術を如何に日本の木工産業に紹介するかです。過去50年の間にいろいろな新技術を紹介してきました。

翻って次の50年はどうなるのだろうか。日本の労働人口は次の半世紀で半減する見通しも出ています。我々製造業については労働力に頼らないものづくり、即ち機械だとかI

Tを通じて生産性を上げていくことが不可欠になってくると思います。日本の木製家具は、現在国内生産が8割、輸入が2割。輸入については毎年1%ずつシェアを上げていまして、あと20年もしたら日本の木製家具は半分が輸入物になるのではないかとという危惧があります。国際競争力向上が急務と考えています。

世界の市場ではロット生産から単品生産に変わってきています。その中で欧米では単品生産を更に進めて「IOT」やドイツ政府が提唱しているインダストリー4.0（第4次産業革命）で抜本的生産性向上を図ろうとしています。こうした挑戦に対しては政府、産業界、学会、プレス等挙げての取り組みが必要ですが、木工産業においては私共JWTAが日本の木工機械メーカーの皆様、ディーラーの皆様と一緒にこういう新しい挑戦に対して対応していきたいと思えます。私共の協会の今後の一番の大きな役割、社会的な責任は、そういった方向にどれだけ協力出来るかと考えています。それからサステイナブル社会の実現、エコを中心にして日本産の木材の消費増、CLT、バイオマス、機



創立50周年記念パーティーの会場



50年の経緯を語る安居会長